

学生支援の現場から

◆西南学院大学

学生支援における視点の転換
 ↳ 正課外教育における積極的な学生の活用

立石 肇
 (西南学院大学 学生部学生課長)

西南学院大学では、正課授業や課外活動の中では学べないことを学ぶ機会を設け、また、日常生活において得た経験ができる機会を準備し、それによって学生たちの人間的成長を図り、学生生活をより豊かで意義あるものとすることを目的として「課外教育プログラム」を実施している。この「課外教育プログラム」は一九八九年度に第一回目を実施して以降、毎年度四〜六つの企画を実施しながら、まもなく二〇二〇年を迎えようとしている。

近年、課外活動やボランティア活動など正課外教育の重要性がクローズアップされてきているが、本学では一九八〇年代半ばに学内の学生を対象に行った学生生活実態調査の結果、学生たちが授業以外の機会幅広い教養を身につ

けた。学生スタッフが様々な学生の意見を踏まえて学生課の職員とともにプランニングを行った。プラン確定後は講師の選定や出演交渉、ポスター作成などの情報宣伝、実行に向けての準備作業や当日の進行などの運営を学生スタッフが務めることによって、「課外教育プログラム」が学生たちにとって身近な企画となり、参加者も増え、また、それに比例してプログラムの評判も良くなった。「学生の意見や要望を重視し、できる限り内容に反映したことで、学生スタッフにも参加した学生にとっても有意義なものとなっ

留学生との交流企画「陶芸教室」の様子



学生スタッフと本学学生による陶芸サークル「西南工房」が共同で製作指導を行う。

けたいという希望を持っていることがわかり、この希望に応える形で、大学学生部が主催し、「課外教育プログラム」を立ち上げた。

これまでに実施してきた主な企画には、キャリア形成支援のための講座、各界の専門家を講師に招いての講演会、国際的視野を養い異文化理解を深めるための留学生交流企画、社会貢献の意識向上を目的とするボランティア体験企画、テーブルマナーや陶芸など正課授業や日常生活の中では学ぶ機会が少ない内容を取り上げた体験学習などがある。

しかしながら、一九九〇年代の半ばから参加する学生数に減少傾向が見え始め、「課外教育プログラム」の見直しについて廃止を含めて種々の意見が示されるようになった。参加人数が減少した要因としては学生意識の多様化や企画の魅力不足などが考えられたため、アンケート調査などで学生のニーズを確認しながら企画の工夫を図ってみたが、なかなか効果が現れず、「課外教育プログラム」の活性化は困難な課題となっていた。

そこで、二〇〇六年度からは、それまで主に学生課の職員が行っていたプログラムの企画や運営に学生スタッフとして参画させることにした。これが大きな効果をもたら

講演会の中で学生スタッフが講師とパネルディスカッションを行っている様子



学生スタッフが、講師の選定、出演交渉、情報宣伝、受付、司会など運営全般を行った。

た。」と、学生スタッフの一人は感想を述べた。

「課外教育プログラム」の活性化は、学生の参画によって学生中心の企画として視点の転換が行われた結果である。今後も「課外教育プログラム」の企画運営には学生スタッフを活用し、一層の充実を図っていきたくと考えている。同時に、正課外教育のあり方についての見直しや学生支援の改善方策の検討においても、学生の参画を積極的に進めていきたい。